

倶楽部

Kounotori

<http://e-smc.jp>

Club Kounotori 2012.6
vol.26

特集

Heart to Heart

乗り越えて見えてきたもの

相談室メッセージ

tea time





なるのではなく親にしてもらおうという言葉が頭をめぐりました。そんな気持ちを妻に伝えると不思議なことに妻もほとんど同じ考えでした。これでどんな結果であろうとすべて受け入れうまくやっていけると確信しました。まずは私の精巣の状態を確認する検査を受け、結果が良ければ体外受精をということにしました。検査の結果、可能性はあるとでました。妻と相談し、まずは1度睾丸から細胞を取ることを選択しました。この治療は体外受精を前提としているため妻にも相当に負担がかかりました。結果は細胞が見つからず終了。一度期待が高まってからの悪い結果に相当のショックを受けました。そのショックから1度では諦めきれず2度目を選択しました。私の場合、睾丸が1つしかないので2回が限界とわかりましたがなぜか1度目より冷静で、これでだめなら気持ちよく治療をやめられるという感覚でした。

2度目の結果も細胞はなし。数か月にわたる不妊治療は終了となりました。とてもがっかりはしているのですが、新たな選択、里親のことで違った期待に胸を膨らませ始めました。渡辺さんになぜ他人の精子は選択肢に入らなかったのか、と問われて少し考えてみました。「妻に私以外の精子で妊娠出産してほしくなかった」という感じかと思います。また、妻の考えもほぼ同じで、「私の子供以外を産むつもりがなかった」と言ってくれました。

〈里親〉

里親と一言で言ってもその道は様々で、大きくは一般的な里親・養育里親、養子縁組を目的とした特別養子縁組里親に分かれます。各都道府県の行政やNPO、里親会などがその任を担っていて、住所のある地域で希望する場合や、地域を超えて子供との出会いを求める場合など調べるとその道は多種多様です。それもつまり里子となる子どもたちは10人いれば10の違った事情があり正解はなかなか見つからないということです。私たちはまず地域の児童相談所を訪ねました。私たちの県の場合、法律の改正に伴い養育里親は指定された研修を受けないと認定されませんが、特別養子縁組里親の場合は法律の縛りはないができるだけ同じ研修を受けてからという説明を受けました。不妊治療と同時期に一部研修を受けていましたが、不妊治療を終了し正式に里親になりたい旨を伝えました。特別養子になりうる里子はそんなに簡単に見つからないといわれていたもので、講義形式の研修を修了しその後ゆっくり乳児院や養護施設の実地研修をと考えていたところ、思いがけず里親認定が決定したと連絡をいただきました。急いで実地研修の手配をと思っていたところ、さらに偶然里子の話をいただきました。私

たちの認定を待っていたかのようなうれしい話にどんな子だろう？ 私たちは親になれるのだろうか？ わくわく半分、不安半分の複雑な気持ちでした。まだ心がしっかり決まっていなかった突然のお話して正直動揺はありました。

〈息子との出会い〉

大まかなお話を聞きとにかくその子に会いたいと、数日後息子との面会をしました。初めて訪れる乳児院、里子となるかもしれない子供、少し緊張しました。小さな小さなその子を見てとにかく「かわいい」の一言でした。看護師さんのお話を聞きながら、妻と代わる代わる子供を抱いたりあやしたり、1時間ほどの時間はあっという間でした。初めて会う息子がちょっと笑ってくれた時には本当にうれしくてこのまま連れて帰りたいと思いました。いったん家に帰り私の父母とも相談し、正式に息子を迎えよう決めました。

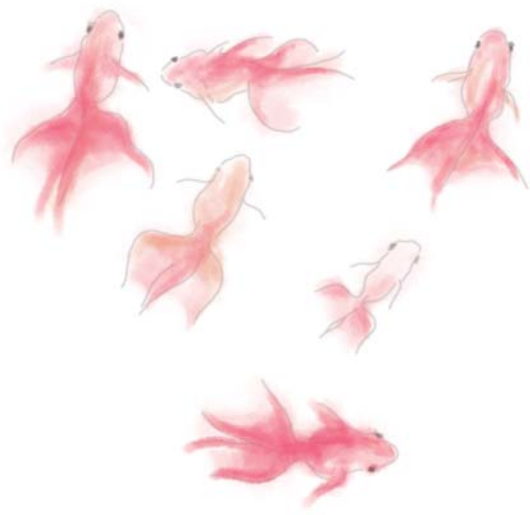
生まれてくるかも知れない子供も、施設から家にくる子供も「どちらも変わりはない」そんな強い気持ちがありました。どちらにしても全力で親になる覚悟をしていたと思います。その後すぐに手続きに入り、息子が正式に我が家にやってきました。短い準備期間でしたが息子を迎え入れることができ、本当に心の底から感動しました。

〈息子との生活〉

息子が来て家族の生活は充実感にあふれています。寝不足や疲れなどは彼の笑顔で吹っ飛びます。子育て初心者ですが、周りのみなさんに支えられすくすくと成長しています。

準備期間が少なかったもので、現在は積極的に研修会や里親サロンなどに参加をしたり、親戚や地域のみなさんに包み隠さず紹介したり、息子にはたくさんのお父さんお母さん、おじいちゃんおばあちゃん、お兄さんお姉さん、弟妹がいます。買い物に行ったときなど見知らぬ方から良く声を掛けられます。「お父さんに似ているね」「お母さん似かな」ちょっとうれしくなる瞬間です。

大きな病気もなく、最近はずかまり立ちから伝い歩き、ハイハイのスピードも上がりちょっと目を離すと危険がいっぱいの状態です。良く遊んで良く食べて（飲んで）良く眠り良く笑い良く泣きます。周りの方から聞くとところによると、とてもおりこうで男の子にしては楽な方だということです。まあ、やんちゃはこれからかもしれませんが、これから息子がどんな風に成長するのか、また私たちがどのように成長させてもらえるのか、一緒にがんばっていこうと思います。



50組100名程の夫婦が参加していたからです。遠方からもたくさん来院しているとは聞いていましたが、不妊に悩む夫婦がこれほど多いとは初めて知りました。吉川先生の説明は分かり易く、医学分野で可能なこと不可能なことをハッキリと伝えて下さったのでとても信頼できました。治療中は遠方から通うのは大変なため、治療開始と同時に駅前のホテルをとり、約二週間滞在してそこから通院していました。ホテルにこれほど長く宿泊するのは人生初の体験でしたが、まさかその後、約二年もの間治療の度にホテルに滞在するとは思いませんでした。

諏訪マタニティークリニックに転院して本当によかったと実感したのは、1回目の治療で初めての陽性判定が出たことでした。今まではかすりもしなかったのもとても驚き嬉しかったです。でも残念ながら化学的妊娠となってしまいました。せっかく妊娠できたというのにこんな結果になってしまってとても落ち込みましたが、相談室でお話した際「結果は残念だったけど、妊娠する力があると分かってよかったね」とおっしゃって頂き、ハッとしました。ようやくスタートラインに立てた気がして泣けてきました。実際、その後の治療では受精率はほぼ100%に近い確率で、3度目の移植でまた妊娠できましたが、自宅で出血してしまい、トイレで血の塊を見た時は無念さで一杯になり泣けてきました。その後ももう一度稽留流産を経験しました。

妊娠すら出来なかった頃に比べて欲がでてきたのか、妊娠する力があっても流産してしまうと、違う意味で落ち込みます。

次に妊娠した時はあの東日本大震災が起こった日。この時の妊娠で初めて心拍を確認するところまで進む事ができましたが、またしても流産となってしまいました。それまでおなかで生きて動いていたのに、突然成長が止まってしまった現実を知

らされた時の衝撃は、過去の流産経験時とは比較にならないものでした。入院中のため誰も側におらず、一人で受け止めなければならぬ現実に耐え切れず、看護師さんの前で大泣きしてしまいました。処置手術後に夫と一緒に電車で帰宅したのですが、車内でも涙が止まらず精神的にも不安定になり、その後しばらく夜も眠れない日が続きました。

それから夫婦で旅行をしたり温泉に行ったり、たくさん気分転換をした後、また治療に再チャレンジしたのです。幸いにもまた妊娠でき、やっぱり今回も切迫流産で入院してしまいました。前回のことが何度も頭をよぎり毎日不安で心配ではありましたが、なんとか無事に育ってくれて、通院3年目にしてようやく諏訪マタニティークリニック卒業の日を迎えることが出来ました。今は地元の病院に通院しており現在妊娠6ヶ月に入ります。ここまでこれたのも本当にあきらめなくてよかったという思いに尽きます。吉川先生や院長先生はじめ、体調面で細やかな支えとなってくださった看護師の皆様、精神面でいつも支えてくださった相談室、その他挙げればキリがないですが、本当に感謝の気持ちで一杯です。諏訪マタニティークリニックを最後の治療の場を選んだことが、私たち夫婦の人生を変えてくれました。本当にありがとうございました。そしてお世話になりました。いま私は41歳、高齢初産であり、高血圧がみであり…リスクもあって心配は尽きませんが、出産したらそれがゴールではなく新たなスタートでもありますし、また違った心配がつかまとうことでしょうかね。でもそれが親になるということではないかと思えます。今はただ、おなかの我が子が無事に元気に生まれてきてくれることを祈るばかりです。

のような内容のメールをしました。すると「一度、診察に来てください。吉川先生に話してありますので」とお返事を頂きました。何故かこのメールを見た瞬間、その短い文面の中ですが、こんな私を待っていてくれると、ほっとしました。その矢先に生理がきました。自分の体の事ながら一体どうなっているのかわけが解りませんが、たぶんメールを貰ってほっとしたんだと思います。関係がないかも知れませんがほっとしたことは事実です。高い治療技術のみならずこんな風に気持ちを受け止めてもらえるなんて、患者にとってはどれほど救われ、勇気づけられる大きな存在か。

以前の私では現実逃避の気持ちから絶対に考えられなかった、「諦める勇氣」でさえも最近では出てきて、心の整理が徐々につきはじめています。私は、診察に病院に伺いつつ、諏訪マタニティークリニックでは心の治療もしていただいていると思っております。結果が良くなくても相談室で会話をして気持ちを切り替え、列車の中の数時間で、窓の景色をぼーっと見ながらゆっくりと自分と向き合い考える。私の暮引き、たぶんそう遠くはない諏訪マタニティークリニック卒業のために、それは貴重な時間です。そしてつい最近、卵が数ヶ月採れなかったら終わりにしよう！という「実質的終わりの日」を掲げる事ができました。

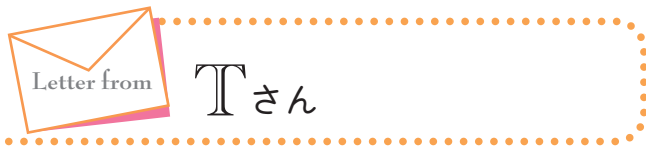
ただ一つだけ心配があります。それは吉川先生の事です。年二回のお休み以外、全力投球で一生懸命に私たち患者の為に向き合ってください本当に感謝しています。一人でも多くの患者さんに子供を授けてあげたいと思って下さっている事がよく伝わります。ただ、先生が倒れてしまったら、このこうのとりの外來の私たちは誰を頼ったらいいか路頭に迷ってしまいます。先生あつての私たちの赤ちゃんなのです。無理しないで下さい。お願いします。神様に願っても子供は授かりませんが、吉川先生は神でもなし得ないことを私たちして下さる大きな存在なのです。いつも有難うございます。お体ご自愛下さい。私も残された時間、悔いの無いようにやらせて頂きます。



余談

今年に入ってから、私の通院手段である特急電車「あずさ」が、人身事故や悪天候のせいで運休になったり、遅れたり足留めになる事が立て続けに起りました。9日目の診察の為始発に乗り込み、休診日体制の為診察は11時迄です。余裕で間に合うとホッとして発車を待っていると管内で人身事故があり遅れるとのアナウンスが。「なんでこんな時に・・・」もうイライラしながら待たされ、約1時間近く遅れて動きました。結局、10時40分頃上諏訪駅に着き、タクシーを飛ばし病院に着いたのが11時ちょうどでした。スリッパも履かずに、玄関からドタドタともの凄い勢いで滑り込み診察券を差し出しなんとか間に合う事ができました。そしてその2日後、卵が小さかった為再診となり、また下諏訪へ向かう事になりました。仕事はどうしても休まず、早退して、17時には病院に到着出来るはずだった14時発に乗る為駅に向かうと、またもや人身事故で乗るはずのあずさが動いていません。それに乗れないと病院には17時には着けません。その日診察は受けられませんでした。ショックでホームから病院に電話を入れ、泣く泣く家路に着きました。そして次の日、まだ排卵してない事を祈りながら一か八か始発に乗って、無事病院に到着しました。また、こんなこともありました。長野県に地震があり、電車はいつ動くか解らないとの事。私だけならいざしも、その日は夫と一緒に。何日も滞在というわけにはいきません。相談室で相談にのって頂き、職員の方に高速バスの手配をして頂きました。電車が動いていない為、バスは満員でしたがすばやい手配のお陰で予約が取れ安心して帰れました。そこまでしていただけて、本当に助かりました。有り難かったです。今の私は、貴重な治療を一回でも逃すわけには行かないので大事な日の前日や台風等天候に影響が出そうな時は、必ずビジネスホテルに前泊し、当日は朝一番に診察を受けて帰る事にしました。それが1番確実です。イライラ、ヒヤヒヤしないで済みますから。本当につくづく子供の事が決着するまで下諏訪に住みたい！！と心から思った出来事でした。ちなみに後に笑い話になったのですが、この一件の後、主人がふざけて、もし今回子供が授かったら、名前は「あずさ」にしようと言った時、笑えずに顔をグーで叩いてやろうと思いました。





治療を続けることは、現在の私の生きがいであり、希望であり、子供を失った悲しみとのバランスを保つ唯一の手段である

私は現在第二子を切望し、諏訪マタニティークリニックでの体外受精治療をしています。平成18年には、吉川先生、根津先生、そして、カウンセラーの渡辺さんなどさまざまな方のお力をお借りして、元気なわが子をこの手に抱くことが出来ました。今では、何回体外受精をしたのか数えるのも止めてしまいましたが、今年40才になった事、そして通院距離等を考慮して、どんな結果であれ、今年を最後に治療を卒業しなければと、考えていました。吉川先生の夏休み前最後の治療で、採卵出来なかった事を知り、多少の落ち込みはありましたが、そういう時もあると自分に言い聞かせ気持ちを切り替え暑い夏を迎えました。

採卵が出来なかった日から、一週間ほどたつて通常の生理と違う出血が10日ほど続きました。地元の病院で診ていただくと、生理ではなくホルモンバランスの乱れによる不正出血との事でした。後日、お休みから戻られた吉川先生に伺ったところ、『それは、生理だよ』と言われたのですが、その時の私は、ホルモンバランスの乱れと言われた事がなぜかとてもショックでした。年内で治療をやめると決断したのに「採卵も出来ない」、「生理も来ない」、「治療をするステージにも上がれない」こんな状態の自分がとても情けなくなりました。そして、何一つまともに出来ない私の存在価値って何だろうと、感じるようになったのです。私の存在価値そして治療、今まで私の中で直接結びついていなかった問題が結びつき、私は出口のない迷路に引き込まれていきました。

じっくり考えていく中で、私の心の中心には「不妊治療」が大きな割合を占めている事に気づきました。また治療が私にとって「生きがい」に匹敵するものとなっている事もわかりました。そして、今まで治療を中心に生活していた私にとって、治療をやめた後の「生きがい」が、具体的に想像出来ませんでした。治療と同じように、「生きがい」と感じられるもの、思いつきません。切望して得た子供の成長を「生きがい」に生きていけばいいじゃないかと思われるかもしれませんがしかし、自分以外から与えてもらった「生きがい」では、なぜか私は自分が幸せだと心から思えないのです。夫や子供の幸せのみを自分の「生きがい」とする私ではなく、私が自分で自分の中から生み出せる「生きがい=幸せ」でなければ、生殖時期を終了し人生を終えるまでの長い期間もたないような気がするのです。もしかすると人間は、与えられる幸せより、自分が生み出した

幸せを自分以外に与える事のほうが、より幸せを感じられるものなのかもしれません。

「私自身から生み出される生きがいとは？」本来治療とは関係ないかのように思える事ですが、治療をやめてしまう事は、私の中心を失う様でとても恐ろしく思えました。そして、『治療をやめた自分=生きがいのない自分』を考えて、心も体も動けなくなっていました。治療をやめたくない、そう思い私はもっと距離的に近い病院に通ったらどうだろうとも考えました。今諏訪マタニティークリニックに通うためには、朝4時に起きて家事を済ませ、5時20分に自宅を出発し、9時30分に諏訪マタニティークリニックに着いています。毎日の事ではないので、夫と子どもの協力を得てなんとかこなしていますが、もっと近ければどんなに楽だろうと思うことも多々あります。正直その距離に負けそうになってしまう気持ちもありますが、「吉川先生は、毎日ががんばっておられるのだから、私もがんばらなくては」と、自分を奮い立たせています。距離だけ考えれば、都内にも有名な不妊治療の病院は沢山あります。でも、都内の病院で、診察のたびに違う先生に診ていただいたり、血液検査のために何回も通ったり、半端でない長い待ち時間であったり、それになにより、治療の悩みを超えて、自分の人生の悩みをも相談できるカウンセラーは、諏訪マタニティークリニックにしかなられません。受付の方たちに、お世話になることもしばしばです。

ある時、関東に台風が上陸予定でした。午後は電車の運休が予想されていました。いつもどおりに諏訪マタニティークリニックに着き、いつもより少し早めに診察を終えることが出来ました。けれどその後の血液検査でなかなか呼ばれません。やきもきしながら待っていると順番がきて看護師さんに採血をしながら状況を話すと、会計に連絡してくださり、すぐに会計をしていただけました。そして受付の方にタクシーまで呼んで頂き、タクシー会社にも私の乗りたい電車の時刻を告げて下さり、タクシーもすぐ駆けつけてくれたのです。都内の病院で、一患者のためにこんなに親身になってくれる事はないのではないかと思います。その日私は自宅に向かう最後の電車に無事に乗り、なんとか帰宅することが出来ました。あと10分遅ければ、私はその日、自宅に戻ることはできませんでした。

不妊治療をされている方の中には、血液検査の結果を事細かく知って、インターネット上で相談している方を見たりしますが、私は、素人がいくら調べてもたかが知れていると思うのです。専門的なことは先生にお任せして、私たち素人に出来ることは、自分にしか出来ない自分の健康管理、規則正しい生活をしたり、栄養のある食事をしたり、沢山笑いあったり、そういう事のような気がします。長い間治療を続けてきて、これが私の見つけ出した治療に対する姿勢となっています。ですから、初めての病院でまたその病院との付き合い方を探るのも、とて

の諺の方に該当してしまいました。何故私は母親にさせてもらえないのか？ どうして私ばかりに不幸がやってくるのか？ 赤ちゃんを抱いている女性や妊婦さんを見ると目をそらし、嫉妬と悔しさでとても醜い心を持ってしまう自分がいました。そんな私に夫は「子供が欲しくてお前と結婚したわけじゃない、いなければならないでいいじゃないか。子供の事は無理しないで。夫婦二人でも十分だから」そう言ってくれました。けれど、そんなことをしてくれる夫だからこそ、彼の子どもが欲しい私。その言葉に再度自分を奮い立たせこの手に抱くまでは流産なんてもう怖くない！ ありとあらゆる事をしよう、そう決めました。

三回流産をしたという事で、都内の大学病院を紹介され不育症の検査を受けました。結果は抗リン脂質抗体症候群いうものでした。パファリンやその他の薬を飲みながら子作りし、妊娠した時点で、自己注射に切替えて出産迄続けていくという治療法でした。担当医からは、「薬がなくなった時、または妊娠したら来て下さい」そう言われました。流産の原因、治療法も判りあとは、また妊娠に繋がるように頑張っていくだけなのに、大量の数ヶ月分の薬を貰って帰る途中、何故か孤独感と虚しさで心がしっくりしていない私でした。これしか方法はないのだろうか？ 薬漬けの身体で大丈夫なのか？ ものすごい抵抗があり

ましたがそんな事を言っても何も始まりませんし、お医者さんには質問すら出来る雰囲気ではなかったため、早く次の妊娠に繋げる為にも出された薬を飲み続けるしかありませんでした。するとどうでしょう、しばらくしたら私の腕や足にあざが出来はじめたのです。薬の副作用でした。すぐにその薬の服用を止め病院を変えました。そこの院長先生はこれまでの私の経緯を聞いて「あなたは妊娠出来るが、出産はできない。まあ、マラソンで言うシード権を持っているようなもんだね」と笑って言いました。もう、この歳になると誰に何を言われてもその手の話題はさらっと返せる自信はあったのですが、ここの時はさすがにグッサリくるものがありました。やさしい言葉をかけてくれとは言いませんが、ただただ傷つけないで下さいと、ビクビクするようになっていきました。自然妊娠に見切りをつけて、体外受精で有名な都内のクリニックへ転院し、そこでの初診で院長先生からはこんな言葉を言われました。「あなたは高齢だから、三回体外受精をして駄目だったらそれで終わりです。お金と時間の無駄です。」大きな声ではっきりそう言われました。確かに高齢です、認めます、沢山患者さんを抱えていて望みの少ない患者に時間を掛けるのも勿体無いとは思いますが、はい、三回で終わり！ といきなり言われて、はい、分かりましたとはとても言えませんでした。しかし、「三回でもやってもらえるなら、有り難いと思おう」私はその三回にすが

里親とは、親の病気、行方不明、離婚などいろいろな事情により家庭でくらしなくなった子どもたちを、自分の家庭に迎え入れて養育する人のことを言います。里親制度は、児童福祉法に基づいて、里親になることを希望する方に子どもの養育をお願いする制度として、昭和23年から実施されています。現在約2800人の里親が約3800人の子どもたちと一緒に生活しています。

里親になるには

特別な資格は必要ありませんが、都道府県などが実施する養育里親研修を修了し、養育里親名簿に登録された者であって、次の要件を満たしていなければなりません。

- 心身ともに健全であること
- こどもの養育についての理解や熱意と愛情を持っていること
- 経済的に困窮していないこと
- こどもの養育に関し虐待などの問題がないこと
- 同居人に、虐待などの欠格事由の該当者がいないこと

里親になるために必要な手続き

① 相談

里親になりたい方、里親について知りたい方は各自治体の児童相談所にご相談下さい。(民間での運営機関もあるの

で、そちらはネットで検索)

② 申請書提出

最寄りの児童相談所に申請書を出しますと、児童相談所による家庭訪問などの調査や先輩里親のアドバイスを受けたりします。

③ 研修

その間、児童養護施設や乳児院等の訪問、里親制度に関する説明等の研修を受講していただくことになります。

④ 調査・認定

児童福祉審議会などでの審議を経て、知事あるいは市長の認定により里親として登録されます。

⑤ 養育の開始

里親の家庭の状況や希望などを考慮し、児童相談所が養育をお願いします。

今回投稿していただいた原稿に、里親さんになって、お子さんを迎えた方がいらっしゃいました。この方以外にも、相談室での相談を経て里親になられた方もいらっしゃいます。世の中にはいろいろな事情で親元で育つことのできないお子さんが大勢いらっしゃいます。そんなことで今回の相談室メッセージ tea time コーナーでは里親についての情報を一部提供しました。もっと詳しくお知りになりたい方は相談室までおいでください。